



世工振ニュース

編集・発行
 公益社団法人 世田谷工業振興協会
 〒154-0004 世田谷区太子堂2-16-7
 世田谷産業プラザ2階
 TEL (03) 3421-2863 FAX (03) 3422-4777
 E-mail: info@setagaya-ia.or.jp
 URL: https://www.setagaya-ia.or.jp/

世工振「第45回 通常総会」が開催されました

「第45回 通常総会」が、6月13日（火）午後4時30分より三軒茶屋キャロットタワー26階にあるオークラレストラン・スカイキャロットにて開催されました。

当日は議長に選任された三橋 悟理事 進行のもと、議案は原案どおり承認、可決され、今年度も昨年度同様、片平会長以下、現行役員体制にて世工振は運営されます。

<今回可決された議案より「定款の一部改正」および「会員規定の新設」について抜粋>

- ◆ 改正理由 世工振の会員規定が実情と乖離が生じているため
- ◆ 定款改正 正会員の定義（第5条（1））の改正
 （旧）世田谷区内において物的、知的生産物の産出を行う法人又は個人
 ↓
 （新）本会の目的に賛同して入会した法人又は個人
- ◆ 規定新設 「公益社団法人世田谷工業振興協会 会員規定」を新設し、正会員を規定（正会員）第2条
 正会員は、原則として世田谷区内において物的、知的生産物の産出を行う法人又は個人とするが、前記以外のものであっても、本会の趣旨に賛同するものは、理事会の承認を受けて、正会員となることができる。



片平会長 ご挨拶

会長の片平でございます。第45回 通常総会の開会にあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。会員の皆様には、日ごろより、協会の事業運営に対してご支援とご理解・ご協力を賜わり、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが、さる5月8日、季節性インフルエンザと同じ「5類」へ移行致しました。感染対策を個人や事業者の判断に委ねる新たな日常が始まり、社会経済活動の活性化への期待も高まっております。

今月の月例経済報告では「景気は、緩やかに回復している。」とされ、消費もコロナ前の水準に戻るなど回復傾向が顕著となって参りました。しかし、製造業はまだまだといった状況でございます。

このような中、昨年度は当協会も主に後半は様々な事業を展開させていただきました。本日は、2022年度の事業報告、並びに収支決算報告など、計5件の議案審議を予定しております。

皆さまから忌憚ないご意見をいただくとともに、議事が円滑に進行していきますよう、ご協力をお願い申し上げます。簡単ですが、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



(裏面につづく)

4年ぶり、懇親会は大盛況

(表面より)

通常総会閉会后、午後6時より同会場にて、コロナの影響で4年ぶりとなる懇親会が、友成哲郎理事の司会進行のもと盛大に開催されました。ご多忙のなか、多くのご来賓、賛助会員、世工振会員、46名の方々にご出席をいただき、会場は大盛況となりました。

ご来賓あいさつの中で保坂展人区長からは、5類に移行した新型コロナに対して気を抜かず監視、対策をとっていくこと、また経済対策としての新たなふるさと納税や、せたがやペイなどの地域循環型経済の成功に向け、世工振会員企業の知恵、センス、技術に期待を寄せている、とのお言葉をいただきました。

世田谷区議会議長おぎのけんじ様、東京工業団体連合会の篠崎事務局次長様からも温かいご挨拶をいただくなど、久しぶりの開催で弾む歓談のなか、懇親会は盛況のうちに終了しました。



【世田谷区】会員企業訪問記 ⑦ (工業・ものづくり・雇用促進課より)

有限会社 飯田スプリング (各種精密スプリング・バネの製造) 4月25日訪問

当日は、飯田保太郎代表取締役会長にご挨拶を頂いた後、飯田泰平代表取締役社長より1階作業場の見学とともに、事業のご説明をいただきました。

同社は1950年(昭和25年)に創業、1984年(昭和59年)に設立された、世田谷区中町に工場を構える会社です。

以前はカメラやライターのバネ部品などを量産されていましたが、現在では、プリンタや複合機などに使用される各種バネの試作やオーダーメイド製造など、お客様の要望に応じた多品種少量生産にシフトされました。バネは大きなものから小さなものまで多くの種類がありますが、同社では比較的線径の細い精密なものを扱っています。バネの注文・相談は多種多様なものがあり、大手メーカーからの試作品依頼から、個人からのバイクに使用するスプリングに関する相談など、幅広く対応されています。

バネの製造過程では、製造機械と手作業による製造、どちらも可能とする環境を整えることで、注文内容に応じて臨機応変に対応しているとのことでした。また、バネ試験機が何台もあり、品質を自社で確認、保証したうえで納品されているとのことでした。

お話を伺っている間も、飯田保太郎代表取締役会長が現役で作業されており、手作業の技術に関しては、飯田泰平代表取締役社長もまだまだ敵わないとのことでした。バネは機械のあらゆるところで使用されていますが、社長のお話では、大部分が長期間の使用に耐えられるよう設計しているとのことでした。直接触れる部分ではないですが、私たちが安心して使える製品の根底には同社のような精緻な技術の積み重ねがあることを改めて認識させられました。

お忙しい中、ご対応いただきましてありがとうございました。

